

死生学・実践宗教学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
死生学特論Ⅰ	死生学の諸問題口	2	高橋 原	前期 水曜5限
死生学特論Ⅱ	スピリチュアリティと宗教 心理	2	高橋 原	後期 水曜3限
死生学特論Ⅲ	死とともに生きることを学 ぶ	2	竹之内 裕文	前期 集中講義
実践宗教学特論Ⅰ	スピリチュアルケア	2	谷山 洋三、井川 裕 覚	前期 火曜2限
実践宗教学特論Ⅱ	宗教的ケア	2	谷山 洋三、井川 裕 覚	後期 火曜2限
実践宗教学特論Ⅲ	死生学文献講読	2	高橋 原	前期 水曜3限
実践宗教学特論Ⅳ	実践宗教学試論~宗教者 によるケア実践	2	高橋 原	後期 水曜5限
応用死生学研究実習Ⅰ	スピリチュアルケア実習	2	谷山 洋三、高橋 原、井川 裕覚	前期 木曜1限
応用死生学研究実習Ⅱ	スピリチュアルケア実習	2	谷山 洋三、高橋 原、井川 裕覚	後期 木曜1限
応用死生学研究実習Ⅲ	スピリチュアルケア実習内 容の指導(振り返り)	2	谷山 洋三、高橋 原、井川 裕覚	前期 木曜2限
応用死生学研究実習Ⅳ	スピリチュアルケア実習内 容の指導(振り返り)	2	谷山 洋三、高橋 原、井川 裕覚	後期 木曜2限

科目名：死生学特論 I

曜日・講時：水曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：高橋 原

コード：LM13506, **科目ナンバリング：**LGH-RES610J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：死生学の諸問題

2. 授業の目的と概要：死生学をめぐる諸問題について学ぶ。

3. 学習の到達目標：死生学的観点から、文化の中の死について理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

指定テキスト(参考書)のトピックにそって、関連する話題を取り上げていく。

- (1) 死生学とは何か
- (2) 死生観と宗教
- (3) 日本人の死生観
- (4) 喪と追悼
- (5) 死生観一国と地域の視点から
- (6) マスメディアで死生について考える
- (7) 「生と死」を生きる本人からの発信
- (8) 老いと死
- (9) 病い経験と「生」
- (10) 遺族の喪失体験とグリーフワーク
- (11) 自己決定権
- (12) ターミナルケア
- (13) 自殺予防
- (14) 尊厳死
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：毎回のミニットペーパーによる。

6. 教科書および参考書：(参考書)

石丸昌彦『死生学入門』放送大学教育振興会 2014

石丸昌彦『死生学のフィールド』放送大学教育振興会 2018

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：死生学特論Ⅱ

曜日・講時：水曜3限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM23304, 科目ナンバリング：LGH-RES611J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：スピリチュアリティと宗教心理

2. 授業の目的と概要：W・ジェイムズ、S・フロイト、C・G・ユング等の古典的な宗教心理学者たちの議論を踏まえて、諸事例をとりあげながら、スピリチュアリティと宗教について考える。

3. 学習の到達目標：心理学者たちの思想的営みと基本概念を学び、危機におけるスピリチュアリティの働きを理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：イントロダクション

第2回：古典的回心理解(1)

第3回：古典的回心理解(2)

第4回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(1)

第5回：現代人の回心体験とスピリチュアリティ(2)

第6回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(1) 健全な心と病める魂

第7回：ウィリアム・ジェイムズの宗教論(2) 潜在意識仮説とプラグマティズム

第8回：心理療法と宗教(1)

第9回：心理療法と宗教(2)

第10回：心理療法と宗教(3)

第11回：心理療法と宗教(4)

第12回：深層心理学と宗教(1)

第13回：深層心理学と宗教(2)

第14回：深層心理学と宗教(3)

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：毎回提出のミニットペーパーによる。

6. 教科書および参考書：特に指定しない。

7. 授業時間外学習：配布資料を熟読し、理解を深める。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：死生学特論Ⅲ

曜日・講時：集中講義

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：竹之内 裕文

コード：LM98810, 科目ナンバリング：LGH-RES612J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死とともに生きることを学ぶ

2・授業の目的と概要：なぜ死生学という学問が誕生したのかというところから始め、終末期医療、在宅での看取りといった現代医療の問題や、大震災被災地での支援、老人介護など、超高齢多死社会といわれる現代生活の多様な局面を取り上げながら、誰もがケアの担い手になり得るという
現実を理解し、それぞれの立場から人間の生と死を取り巻く諸問題にどのように対処していけばよいのかを考察する。

3. 学習の到達目標：1 対話スタイルで進められる授業を通して、対話的探究の楽しさと可能性を味わい、対話のスピリットと技法を習得する。

2 テキストを読み、他の受講者や教員と対話することを通して、「死とともに生きる」自分なりの構えと知恵を身につける。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業では、すべての人間の共通課題である「死」と「死別」と正面から向き合い、他者とともにどのように生きるかについて、対話を通して共に探究する。授業は、1) 所定のテキストの各章(序章~終章)をめぐる9つの対話、2) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク、3) 重度障害者の自立生活に関する動画鑑賞により構成される。

- 1) ガイダンス: 講義の目的と進め方、「対話」をめぐる試行の対話
- 2) ワールドカフェ ある死別の経験から(序章)
- 3) 映画『生かされて生きる』鑑賞
- 4) テキストをめぐる対話1 重度障害者自立ホームから(第1章)
- 5) テキストをめぐる対話2 在宅緩和ケアの現場から(第2章)
- 6) テキストをめぐる対話3 死者と共にある農村との出会い(第3章)
- 7) テキストをめぐる対話4 いのちに気づかって生き、死ぬ(第4章)
- 8) テキストをめぐる対話5 共に生きること、本当に生きること(第5章)
- 9) 10) 11) コミュニティ緩和ケアの現場(穂波の郷)でのフィールドワーク
- 12) テキストをめぐる対話6 森と湖の国の「福祉」(第6章)
- 13) テキストをめぐる対話7 ホスピス運動の源流を辿る(第7章)
- 14) テキストをめぐる対話8 死とともに生きることを学ぶ~哲学と対話(終章)
- 15) 授業全体のふり返り

5. 成績評価方法：ポイント制とします。試験やレポートはありません。

1. テキストをめぐるワールドカフェ/対話(全9回)の準備作業として、受講者は各回の授業冒頭にフィードバックシートを提出します。すべての設問にきちんと回答して、フィードバックシートをすべて提出すると、8点満点×9回=72点のポイントを獲得します。2. 全体対話での発言については、これを対話的探究への寄与と位置づけ、1回あたり3点を加算します。

6. 教科書および参考書：講義担当者の単著『死とともに生きることを学ぶ 哲学と対話』(ポラーノ出版 2019 ISBN: 978-4908765223)をテキストとして使用します。

7. 授業時間外学習：講義テキストを事前に読み、序章から終章について、それぞれフィードバックシートに記入してもらいます。通常の授業より、事前の準備課題が多いように感じられるかもしれませんが、しかしその分、事後のレポートや試験はありません。対話=本番という考え方を共有してください。

8. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business

9. その他：

きちんと準備して臨めば、きっと楽しい授業となるでしょう。母校での対話的探究を楽しみにしています。死生学カフェと対話については次のURLを参照ください。

<https://www.facebook.com/shiseigakucafeshizuoka/>

<http://hdl.handle.net/10297/00027723>

科目名：実践宗教学特論 I

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：谷山 洋三、井川 裕覚

コード：LM12203, 科目ナンバリング：LGH-RES613J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：スピリチュアルケア

2・授業の目的と概要：国内のスピリチュアルケアの議論に触れつつ、その多様性と課題を確認した上で、臨床宗教師が誕生した背景、スピリチュアルケアと宗教的ケアの相違、両ケアの共通性としての宗教的資源の活用など、ケア実践の具体像に迫るとともに、体験的ワークにより理解を深める。

3. 学習の到達目標：公共空間で提供されるスピリチュアルケアについて、その理念と方法を理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：スピリチュアルケア実践論1：「臨床宗教師」の誕生

第3回：スピリチュアルケア実践論2：生活の中で

第4回：スピリチュアルケア実践論3：ペインとケア

第5回：スピリチュアルケア実践論4：宗教的資源の活用

第6回：スピリチュアルケア実践論5：臨床宗教師の可能性

第7回：ワークショップ1

第8回：スピリチュアルケア理論1（村田、中井）

第9回：スピリチュアルケア理論2（窪寺）

第10回：スピリチュアルケア理論3（大下、河）

第11回：スピリチュアルケア理論4（小西）

第12回：スピリチュアルケア理論5（伊藤）

第13回：スピリチュアルケア理論6（葛西）

第14回：ワークショップ2

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：授業時提出の小レポート[50%]、発表・授業への取り組み[50%]

6. 教科書および参考書：教科書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
参考書：瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
該当する

9. その他：

科目名：実践宗教学特論Ⅱ

曜日・講時：火曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：谷山 洋三、井川 裕覚

コード：LM22204, 科目ナンバリング：LGH-RES614J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：宗教的ケア

2・授業の目的と概要：「宗教的ケア」をテーマに、様々な宗教者、臨床宗教師、スピリチュアルケア師、医療従事者などの臨床の在り方について議論する。スピリチュアルケアの視点から、主として公共空間における宗教性をケアに用いることの意義や、効果についても検討したい。毎回テーマに関する雑誌論文等を指定し、演習形式で授業を進める。

3. 学習の到達目標：公共空間における宗教的ケアについて、その宗教的意義と、ケアとしての意義の両方の側面から検討し、理解を深める。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：オリエンテーション

第2回：山本佳世子ら「宗教系病院における死亡した非信者患者及びその家族への宗教者によるケア」

第3回：山田和夫「精神科医療におけるスピリチュアルケアについて」

第4回：中島修平「がん在宅緩和医療における安らかな看取りのためのスピリチュアルケア」

第5回：野田康弘「チャプレン研修から学んだ緩和医療におけるキリスト教のあり方」

第6回：小括（スピリチュアルケアの宗教性）

第7回：村田久行「終末期がん患者のスピリチュアルペインとそのケア」

第8回：小西達也「終末期スピリチュアルケアの三つの〈あいだ〉」

第9回：田中英明ら「東洋と西洋の医療従事者のスピリチュアリティ等に対する認識の比較」

第10回：小括（医療と宗教的ケア・スピリチュアルケア）

第11回：細谷幸子「イランのスピリチュアルケアの現状」

第12回：中川吉晴「G. R. A. C. E. におけるスピリチュアルケア」

第13回：斉藤仙邦「梵天勧請についての一考察」

第14回：伊藤高章『「スピリチュアリティの定義」をめぐって』

第15回：まとめ

5. 成績評価方法：発表[50%]、授業への取り組み[25%]、出席[25%]

6. 教科書および参考書：参考書：谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年
瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
該当する

9. その他：

科目名：実践宗教学特論Ⅲ

曜日・講時：水曜 3 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM13304, 科目ナンバリング：LGH-RES615J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：死生学文献講読

2. 授業の目的と概要：死生観に関する英語文献を読み、生と死の諸問題についての基礎的な知識を得る。

3. 学習の到達目標：生と死の諸問題についての知識を自分の問題関心につなげる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

Death and Bereavement Across Cultures: 2nd Edition (Colin Murray Parkes (Editor), Pittu Laungani (Series Editor), Bill Young (Series Editor), Routledge, 2015.)をチャプターごとに読み進める。テキストの購入は必要ない。

学生は以下に示す目次から、毎回一章を選んで要約発表を行い、授業内でディスカッションを行なう。

Part 1. A Conceptual Framework : Historical and Cultural Themes.

Murray Parkes, Laungani, Young, Introduction.

Murray Parkes, Laungani, Young, Culture and Religion.

Part 2. Major World Systems of Belief and Ritual.

Rosenblatt, Grief in Small-Scale Societies.

Pittu and Ann Laungani, Death in a Hindu Family.

Gouin, The Buddhist Way of Death.

Levine, Jewish Views and Customs on Death.

Jupp, Christianity: Beliefs and Practices about Death and Bereavement.

Alladin, The Islamic Way of Death and Dying: Homeward Bound.

Walter, Secularisation.

Part 3. Practical Implications and Conclusions.

Papadatou, Children and Families.

Murray Parkes, Helping the Dying and the Bereaved.

Laungani, Murray Parkes, Young, Conclusions I. Implications for Practice and Policy.

Murray Parkes, Conclusions II. Attachments and Losses in Cross-cultural Perspective

5. 成績評価方法：出席回数と発表内容により総合に評価する。

6. 教科書および参考書：Death and Bereavement Across Cultures: 2nd Edition (Colin Murray Parkes (Editor), Pittu Laungani (Series Editor), Bill Young (Series Editor), Routledge, 2015.)

7. 授業時間外学習：テキストを読み、発表資料を準備する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：実践宗教学特論Ⅳ

曜日・講時：水曜 5 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：高橋 原

コード：LM23506, 科目ナンバリング：LGH-RES616J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：実践宗教学試論～宗教者によるケア実践

2. 授業の目的と概要：とりわけ「死」の周辺において宗教者が果たしてきたケアの役割について彼らの現場経験から学ぶ。

3. 学習の到達目標：さまざまな実践例から、現代社会における死とケア、宗教文化を取り巻く諸問題を理解する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

本学担当教員による回と、ゲスト講師としてケアの現場で活動する宗教者(臨床宗教師)を招く回があります。各回の内容は仮のもので、順序、担当講師の詳細は未定です。決定し次第、掲示等で告知します。

1. 臨床宗教師とは何か？(1)
2. 臨床宗教師とは何か？(2)
3. カフェ・デ・モンク(宗教者による被災地支援の実情)
4. スピリチュアルケアと宗教的ケア
5. 終末期医療と宗教者
6. 臨床心理学と宗教
7. 民間信仰論
8. 宗教間対話
9. 臨床宗教師の実践報告(1)
10. 臨床宗教師の実践報告(2)
11. 臨床宗教師の実践報告(3)
12. 臨床宗教師の実践報告(4)
13. 臨床宗教師の実践報告(5)
14. 臨床宗教師の実践報告(6)
15. 臨床宗教師の実践報告(7)

5. 成績評価方法：毎回のミニットペーパーの内容と出席状況により判断する。

6. 教科書および参考書：特に指定しない

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：応用死生学研究実習 I

曜日・講時：木曜 1 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：谷山 洋三、高橋 原、井川 裕寛

コード：LM14101, **科目ナンバリング：**LGH-RES617J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習

2・授業の目的と概要：死生学的課題にとりくむ現場を参与観察するとともに、スピリチュアルケア実践の実習を行い、実習先・ケアチームの状況理解、倫理的課題、ケア対象者のニーズと対応、ケア提供者の責任と実践力を身につける。実習報告会(会話記録検討会など)では、他の履修者の実習内容から、実践の多様性とフレキシビリティを学びつつ、自己課題に向き合い、ケア提供者としての自己の適性を明らかにする。

3. 学習の到達目標：スピリチュアルケアの現場に身を置くことで、死生学的課題にとりくむ実践力を習得する。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回:学習契約
- 第2回:実習先の決定・書類締結
- 第3回:実習訪問(1)実習先の状況理解
- 第4回:実習訪問(2)チームの状況理解
- 第5回:実習訪問(3)職掌の理解
- 第6回:実習訪問(4)倫理的課題
- 第7回:実践報告会(1)実習現場特性と実習内容の分かち合い
- 第8回:実習訪問(5)参与観察報告1
- 第9回:実習訪問(6)ケア提供者の責任
- 第10回:実習訪問(7)ケア対象者のニーズ
- 第11回:実習訪問(8)ケア提供者の対応
- 第12回:実践報告会(2)実習現場特性と実習内容の分かち合い
- 第13回:実習訪問(9)参与観察報告2
- 第14回:実習訪問(10)ケア提供者の倫理
- 第15回:まとめ・自己評価

5. 成績評価方法：レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

6. 教科書および参考書：教科書:窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年

参考書:谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年。
瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年。

7. 授業時間外学習：授業内で提示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

該当する

9. その他：

この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習 III (高橋原・谷山洋三・井川裕寛)、死生学特論 I (高橋原)、実践宗教学特論 I (谷山洋三・井川裕寛)を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅱ

曜日・講時：木曜 1 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：谷山 洋三、高橋 原、井川 裕寛

コード：LM24102, **科目ナンバリング：**LGH-RES618J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習

2・授業の目的と概要：スピリチュアルケアが提供される現場での実習と参与観察を行い、これに基づいてケーススタディによるレポート(会話記録 など)を作成・発表し、職掌の理解、倫理的課題の把握と分析、多職種チームアプローチの方法と意義、ケア提供者の責任と 倫理について、実践的な視点から考察する。実習報告会(会話記録検討会など)では、他の履修者の実践内容に基づいて、自 己の実践性について相互評価を行う。

3. 学習の到達目標：死生学的課題にとりくむ現場における自らの役割を理解し、体系的に論じる力を養う。

4. 授業の内容・方法と進捗予定：

- 第 1 回:学習契約、実習先の決定・書類締結
- 第 2 回:実習訪問(1)実習先の状況理解
- 第 3 回:実習訪問(2)職掌の理解
- 第 4 回:実習訪問(3)倫理的課題
- 第 5 回:実践報告会(1)実習内容の分析
- 第 6 回:実習訪問(4)参与観察報告 1
- 第 7 回:実習訪問(5)チームアプローチ
- 第 8 回:実習訪問(6)多職種間コミュニケーション
- 第 9 回:実践報告会(2)実習内容の分析と批判的検討
- 第 10 回:実習訪問(7)参与観察報告 2
- 第 11 回:実習訪問(8)情報共有
- 第 12 回:実践報告会(3)活動の倫理と責任についての分析
- 第 13 回:実習訪問(9)ケア提供者の倫理
- 第 14 回:実習訪問(10)ケア提供者の責任
- 第 15 回:まとめ・自己評価・実習報告レポート

5. 成績評価方法：レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

6. 教科書および参考書：教科書:窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010 年

参考書:谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016 年。

瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021 年。

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

該当する

9. その他：

この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習Ⅰ及びⅢ(高橋原・谷山洋三・井川裕寛)、死生学特論Ⅰ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅰ(谷山洋三・井川裕寛)を履修済みであること。併せて、応用死生学研究実習Ⅳ(高橋原・谷山洋三・井川裕寛)、死生学特論Ⅱ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅱ(谷山洋三・井川裕寛)を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅲ

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：谷山 洋三、高橋 原、井川 裕覚

コード：LM14208, **科目ナンバリング：**LGH-RES619J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習内容の指導（振り返り）

2・授業の目的と概要：応用死生学研究実習Ⅰの実習での経験に基づいて、グループワークを通して、傾聴の姿勢・態度、言語的・非言語的コミュニケーション能力、ケア対象者理解について自己検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、実践力を養う。

3. 学習の到達目標：実習での経験に基づいてスピリチュアルケア提供者としてのアイデンティティ確立を目指す。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回:実習先オリエンテーション
- 第2回:ケア倫理オリエンテーション
- 第3回:学習契約
- 第4回:傾聴の姿勢・態度
- 第5回:感情のキャッチボール
- 第6回:ロールプレイ(1)傾聴の姿勢・態度の確認
- 第7回:会話記録検討(1)感情表現
- 第8回:会話記録検討(2)言語的コミュニケーション
- 第9回:会話記録検討(3)非言語的コミュニケーション
- 第10回:総合ディスカッション
- 第11回:会話記録検討(4)ケア対象者理解
- 第12回:会話記録検討(5)ケア提供者の自己覚知
- 第13回:会話記録検討(6)感情表現によるケア
- 第14回:ロールプレイ(2)傾聴の姿勢・態度の変化確認
- 第15回:まとめ・自己評価

5. 成績評価方法：レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

6. 教科書および参考書：教科書:窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年

参考書:谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年。

瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年。

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

該当する

9. その他：

この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。併せて、応用死生学研究実習Ⅲ（高橋原・谷山洋三・井川裕覚）、死生学特論Ⅰ（高橋原）、実践宗教学特論Ⅰ（谷山洋三・井川裕覚）を履修すること。

科目名：応用死生学研究実習Ⅳ

曜日・講時：木曜 2 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：谷山 洋三、高橋 原、井川 裕覚

コード：LM24208, **科目ナンバリング：**LGH-RES620J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：スピリチュアルケア実習内容の指導(振り返り)

2・授業の目的と概要：応用死生学研究実習 II の実習に基づいて、感情の言語化、自分史の振り返り、自己開示・内省のワークショップを通して、自己のケア能力・姿勢・態度を検証・内省する。自己検証・内省を継続することにより、高度な実践力を養う。

3. 学習の到達目標：実習での経験に基づいてスピリチュアルケア専門職としての責任と倫理を高め、専門的な実践力を養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- 第1回:実習先オリエンテーション
- 第2回:ケア倫理オリエンテーション
- 第3回:学習契約
- 第4回:ロールプレイ 傾聴の姿勢・態度の確認
- 第5回:会話記録検討(1)沈黙によるケア
- 第6回:会話記録検討(2)感情表現によるケア
- 第7回:会話記録検討(3)感情の言語化
- 第8回:会話記録検討(4)自己開示
- 第9回:総合ディスカッション
- 第10回:生育歴セミナー(1)自分史の振り返り
- 第11回:生育歴セミナー(2)課題の自覚
- 第12回:会話記録検討(5)自己内省
- 第13回:会話記録検討(6)「傷ついた癒し人」
- 第14回:会話記録検討(7)セルフケア
- 第15回:学習成果報告

5. 成績評価方法：レポート[20%]、自己課題の明確化[40%]、実習内容の評価[40%]

6. 教科書および参考書：教科書:窪寺俊之ほか編著『スピリチュアルケアを語る 第三集 臨床的教育法の試み』関西学院大学出版会、2010年

参考書:谷山洋三『医療者と宗教者のためのスピリチュアルケア』中外医学社、2016年。

瀧口俊子・大村哲夫ほか編著『共に生きるスピリチュアルケア』創元社、2021年。

7. 授業時間外学習：授業内で指示する。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

該当する

9. その他：

この授業の履修には、高度な日本語運用能力が不可欠です。履修者は死生学・実践宗教学専攻分野の大学院生に限る。応用死生学研究実習Ⅰ及びⅢ(高橋原・谷山洋三・井川裕覚)、死生学特論Ⅰ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅰ(谷山洋三・井川裕覚)を履修済みであること。併せて、応用死生学研究実習Ⅱ(高橋原・谷山洋三)、死生学特論Ⅱ(高橋原)、実践宗教学特論Ⅱ(谷山洋三・井川裕覚)を履修すること。